

希望の種
ふくおか
NPOファイル

②

「子どもたちに身近な自然を体験してほしい」「都市の暮らしと森をつなぎたい」。そんなメンバーの思いからスタートした「森のめぐみワークショップ」。舞台は森や自然豊かな公園、あるいは校庭やイベント会場です。森の手入れで出た木を削ってスプーンやミニ黒板を作る、時には乾かした枝でたき火をしたり、秘密基地を造ったり、いろんな森の楽しみ方を提案しています。

企画・実施するのは「NPO法人グリーンシティ福岡」

(福岡市中央区)。2003年に造園会社の経営者や大学教授、環境再生医、フアシリテーター(会議の進行役)などの資格や経験を持った専門

グリーンシティ福岡

事務所=福岡市中央区▽電話番号=092(215)3913

メールアドレス=info@greencity-f.org



家が集まって設立されました。都会と森林、人と自然がバランスを保って共存し、自然に親しみながら人間らしい暮らしが営めるまちづくりを目指して活動する団体です。

「森のめぐみ」のコンセプトは、「小さな森を家に持ち帰る」。専門家による啓発活動は正しい知識や広い視野を得ることができ、一般市民にとっては、時に敷居が高くなってしまいうこともあり

自然と「対話」の場を

が重要だと、グリーンシティ福岡の理事・志賀壮史さん(43)は語ります。「テレビやネットでなんでも手軽に見ることができる時代です。多様な視点を育むには、実際に体験すること、それを言葉にして身近な人とおしゃべりする

ことが大切と思います」自然の豊かさを理屈としてだけでなく、目で見て手で触って匂いで感じ取ることに、そのときの心の動きを自分の言葉で表現すると、誰かに教えられた言葉以上のものが、その人の中から生まれてくるのかもしれない。

グリーンシティ福岡では、「森のめぐみ」以外にも志賀島の森林ボランティアや玄界灘沿岸の松原保全、九州自然

「参加者を受けとめているかが大事」「すぐ効く対策よりも『事実』や『自分』をよく観察すること」「『お茶コーナー』も大切な段取り」など、人のモチベーションや考え方を誘導するテクニックではなく、その人の中にある声に安心して出てこられるようにして、それをしっかりと受け止めあえる工夫が、講座の中で説明されています。

そもそも人も自然の一部であり、周囲の人間関係も環境と言えるでしょう。都市と森林のように、一見異質で折り合えないような隣人とも、折り合いをつけ協力して生きていくことが出来るはず。そこに必要なものは「体験」と「対話」であるというグリーンシティ福岡の理念には、私たち一人一人の生活や暮らしを豊かにするヒントが込められているかもしれません(仮認定NPO法人「アカツキ」代表理事・永田賢介)

福岡市の油山であったイベントでの「森のめぐみワークショップ」

5月

原則毎週月曜掲載